

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 155

江戸川区小岩小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+0.5	+0.3	+0.8	令和8年度の目標	+2	+2	0	+3.5	-1	+0.5	-2	-3
令和7年度の結果	-0.4	+0.3	-0.1	令和7年度の結果	-1.8	+3.3	-2.0	+0.3	-2.8	-5.3	+2.9	+3.0
令和6年度の結果	+2	-8	-6	令和6年度の結果	-5.5	-3.5	-5.4	-8.3	+0.4	-1.4	-4.5	+2.7
令和5年度の結果	-4	-2	-6	令和5年度の結果								
年度	令和7年度			令和8年度								
内容	成果と課題			目標			目標達成に向けた取組					
学校全体	<p>【成果】</p> <p>○区は、校内研究に取り組んだことで、8割以上の児童が「よくわかる」とアンケートに解答した。</p> <p>○算数は、単元ごとに習熟度に応じた学習内容や学習進度で授業を行った。特に、昨年度、江戸川区学力調査を行った4年生以上は、全学年で正答率の全国との差が縮まったり、上回ったりした。</p> <p>【課題】</p> <p>○江戸川区学力調査の結果から、計算や漢字、言語などに関する基本的な知識・技能に関する問題の正答率が低い。また、文章から読み書きするような記述式の問題の取組の割合も多い。</p>			<p>○全学年がスタンダードに基づいた授業を実施する。</p> <p>○児童が目的に応じて思考ツールを活用し、判断や考察ができる力を身に付けられるようにする。</p> <p>○児童が文章を読んだ際に、心に残ったことや自分の考えを文章で表現できたり、各学年に応じた語彙量や熟語、ことわざや慣用語、故事成語など長い間使われてきた言葉を知り、使ったりすることができるようにする。</p>			<p>○区が主催する江戸川区スタンダード公開授業研修に各学年1人は参加し、校内で還元研修を行う。</p> <p>○算数科、社会科や理科、読書科等の各教科で表やグラフの読み取りについて繰り返し指導を行う。</p> <p>○第3学年までは、日記・手紙・観察カード・ポスターなど、書く活動が豊かになるように指導する。第4学年からは、よむYOMU ワークシートを効果的に活用する。</p>					
第1学年	<p>【成果】</p> <p>○算数は、学年後半から単元ごとに習熟度に応じた学習内容や学習進度で授業を行ったことで、各層の児童の力をそれぞれ伸ばすことができた。</p> <p>○国語は、音読を毎日家庭と協力して取り組んだことで、言葉のまとまりを意識して読む児童が増えた。</p> <p>【課題】</p> <p>○10の合成や加減算などが難しい児童が1割程度いる。</p>			<p>○算数科では、単元によって、習熟度に応じた授業展開を実施する。また、図や式を使って問題を解決できるようにする。</p> <p>○国語科の授業や家庭学習で言葉集めを行い、語彙を増やす。</p> <p>○全児童が、加減算の計算カードを1分で唱えられるようにする。</p>			<p>○「小岩っ子の学び方」（学習スタンダード）で基本的な学習の流れ・発言の仕方などを学び、学習への取り組み方を全児童が身に付け、安心して学習に取り組めるようにする。</p> <p>○朝学習やマスマスウィーク等を活用し、計算技能の向上を図る。</p> <p>○読書科の授業や週2回の授業を通して、本に親しみ本で学ぶ児童を育てる。</p>					
第2学年	<p>【成果】</p> <p>○町たんけんなど、課題追求型の授業を多く取り入れたことで、どの学習も意欲的に取り組む様子が見られる。</p> <p>○算数は、学年後半から単元ごとに習熟度に応じた学習内容や学習進度で授業を行ったことで、各層の児童の力をそれぞれ伸ばすことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○正確に九九を唱えることができない児童が1割程度いる。</p>			<p>○算数科では、単元によって、習熟度に応じた授業展開を実施する。また、図や式を使って問題を解決できるようにする。</p> <p>○国語科の授業や家庭学習等で言葉集めを行い、語彙を増やす。</p> <p>○全児童が、九九を唱えられるようにする。</p>			<p>○日記を書くことを家庭学習に組み込んだり、各教科でお世話になった方々に手紙を書くことを計画的に行ったりすることで、思ったことや伝えたいことを明確にして文章を書くことができるようにする。</p> <p>○九九の定着に向けて、家庭と連携したカードを作成し、保護者の協力を得ながら児童が繰り返し練習に取り組むことができるようにする。</p> <p>○算数科では、簡単な図や式を用いて自分の考えを表す時間、お互いの考えを伝え合う時間を確保する。</p>					
第3学年	<p>【成果】</p> <p>○算数科では、江戸川区定着度調査に向けて、ドリルパーク等を活用し、基礎・基本の定着を図ったことで、応用問題にも進んで取り組み、全国平均を上回ることでできた。</p> <p>【課題】</p> <p>○江戸川区学力調査の結果から、国語科では漢字などの知識面の得点が低く、無答率も高かった。算数科では、引き算や時刻と時間に関する問題の正答率が低かった。</p>			<p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。また、図、数、式を使って問題を解決できるようにする。</p> <p>○対話的な授業実践と個に応じた指導を実践する。</p> <p>○辞書や辞典を正しく使用し、日常的に活用できるようにする。</p>			<p>○算数科では、習熟度の指導内容を見直し、発展コースでは、授業の構成を工夫し、多くの発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組む時間を確保する。</p> <p>○朝学習やマスマスウィーク等を活用し、基本的な四則計算の技能を高める。</p> <p>○算数科の授業では、習熟度の指導内容を見直し、発展コースでは、授業の構成を工夫し、多くの発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組む時間を確保する。</p>					
第4学年	<p>【成果】</p> <p>○算数科では、江戸川区定着度調査と学習カルテを活用し、繰り返し基礎・基本の定着を図ったことで、正答率が7割以上の児童を3回までに増やすことができた。</p> <p>○ゲストティーチャーを招く等、体験型の授業を多く取り入れたことで、意欲的に学習に参加する様子が見られた。</p> <p>【課題】</p> <p>○江戸川区学力調査の結果から、国語科では「聞くこと」、算数科では、応用問題の得点率が低かった。</p>			<p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。また、図、数、式を使って問題を解決できるようにする。</p> <p>○対話的な授業実践と個に応じた指導を実践する。</p> <p>○家庭だけでなく、EDOスクとも連携し、基礎学力の向上を図る。</p> <p>○図書館と連携し、本で調べる学習を積極的に取り入れる。</p>			<p>○授業では、基礎基本を身に付ける指導を継続すると共に、問題解決的な学習を取り入れる。</p> <p>○国語科では、特に文章の構成を捉えて要旨を把握したり、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に抑えて考えるような学習を丁寧に行っていく。</p> <p>○朝学習やマスマスウィーク等を活用し、基本的な四則計算の技能を高める。</p> <p>○算数科の授業では、習熟度の指導内容を見直し、発展コースでは、授業の構成を工夫し、多くの発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組む時間を確保する。</p>					
第5学年	<p>【成果】</p> <p>○算数科では、江戸川区定着度調査と学習カルテを活用し、繰り返し個に応じた基礎・基本の定着を図ったことで、整数の計算の正答率が高かった。また、国語科では、スタンダードを基にした授業を展開した。</p> <p>【課題】</p> <p>○江戸川区学力調査の結果から、国語科では、「同音異字」「慣用語」、算数科では、分数・小数の計算の得点率が低かった。</p>			<p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。また、図、数、式を使って問題を解決できるようにする。</p> <p>○対話的な授業実践と個に応じた指導を実践する。</p> <p>○家庭だけでなく、EDOスクとも連携し、基礎学力の向上を図る。</p> <p>○図書館と連携し、本で調べる学習を積極的に取り入れる。</p>			<p>○授業では、基礎基本を身に付ける指導を継続すると共に、問題解決的な学習を取り入れる。</p> <p>○特に国語科の読解的な文章の学習や調べたことをまとめて表現する学習などでは、情報と情報との関連付けの仕方や、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる力を育ていく。</p> <p>○朝学習やマスマスウィーク等を活用し、基本的な四則計算の技能を高める。</p> <p>○算数科の授業では、習熟度の指導内容を見直し、発展コースでは、授業の構成を工夫し、多くの発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組む時間を確保する。</p>					
第6学年	<p>【成果】</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果から、算数は全分野で全国平均を上回った。</p> <p>○江戸川区学力調査の結果から、児童は、記述式の正答率が高かった。算数科では、江戸川区定着度調査と学習カルテを活用し、繰り返し個に応じた基礎・基本の定着を図った。各問題の基礎問題は、すべて全国平均を超えることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○江戸川区学力調査の結果から、国語科では、「漢字の読み書き」、算数科では、応用問題の得点率が低かった。</p>			<p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。また、図、数、式を使って問題を解決できるようにする。</p> <p>○対話的な授業実践と個に応じた指導を実践する。</p> <p>○家庭だけでなく、EDOスクとも連携し、基礎学力の向上を図る。</p> <p>○図書館と連携し、本で調べる学習を積極的に取り入れる。</p>			<p>○授業では、基礎基本を身に付ける指導を継続すると共に、問題解決的な学習を取り入れる。</p> <p>○国語科では、読むこと、書くことの学習の中で、目的意識や相手意識を明確にして集めた内容を分類したり関連付けたりしてまとめる学習を増やすと共に、具体的にその方法を理解し、形着せしめたい中で、その良さを実感できるようにしていく。</p> <p>○朝学習やマスマスウィーク等を活用し、基本的な四則計算の技能を高める。</p> <p>○算数科の授業では、習熟度の指導内容を見直し、発展コースでは、授業の構成を工夫し、多くの発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組む時間を確保する。</p>					